

氏名	大 室 和 代 おおむろかずよ
学位の種類	医 学 博 士
学位記番号	論 医 博 第 738 号
学位授与の日付	昭 和 53 年 5 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	アトピー性皮膚炎のレアジン抗体と PCA 抗体について

論文調査委員 (主査) 教授 太藤重夫 教授 安平公夫 教授 奥田六郎

### 論 文 内 容 の 要 旨

#### 〔目的〕

乳児アトピー性皮膚炎のほとんどが1～3才で治癒し、その一部が小児期アトピー性皮膚炎に移行する。このアトピー性皮膚炎の原因は、色々の説があり、また1～3才で治癒へ向かう機構についてもまだ何ら解明されていない。本研究は、卵白の摂取とアトピー性皮膚炎症状の消長に密接な相関関係を確認し得た症例を中心に、その血清中の IgE 抗体および卵白特異抗体（レアジン抗体と PCA抗体）とその症例の症状経過との関係を詳細に検討し、卵白アレルギーによるアトピー性皮膚炎の発症機序およびその治癒過程についてのいったんを明らかにしようとした。

#### 〔対照及び方法〕

現在ないし過去に乳児アトピー性皮膚炎の病歴をもち、卵白アレルギーの関与を確診し得た患者12例（生后4ヶ月～9才、男6例女6例）と卵白アレルギーの関与が明らかな蕁麻疹症例4例と卵白のレアジン抗体は保有するが、卵白の摂取、除去により皮膚症状の相関関係が認められない4例について、血清 IgE 抗体（Pharmacia 社製の RIST kit を用い Radioimmunosorbent 法により測定）、抗卵白特異 IgE 抗体（Pharmacia 社製の RAST kit を使用）、抗卵白特異 PCA 抗体（白色モルモット両側背部の皮膚使用）を測定した。

#### 〔成績〕

1. 卵白アレルギー患児の血清 IgE 値は、高値を示すものが多いが、中に  $30 \mu/ml$  と低値のもあり、又蕁麻疹の症例は、正常範囲内である。
2. 卵白のアトピー性皮膚炎では、皮膚炎の活動期には、抗卵白特異 IgE 抗体を RAST score 2 以上もち、皮膚炎の治療後も、長期間、ほとんどの例が2以上保有している。
3. 卵白のアトピー性皮膚炎では、皮膚炎の活動期には全例卵白の PCA 抗体を保有し、皮膚炎の治癒期には、1例を除き消失している。この1例は、皮膚炎活動期には、卵白の特異 IgE 抗体および PCA 抗体を保有し、治癒期には、特異 IgE 抗体が消失し、PCA 抗体は保有している。

4. 抗卵白特異 IgE 抗体を保有するアトピー性皮膚炎で、食いと皮膚症状の相関関係が認められない4例においては、卵白の PCA 抗体をほとんど保有しない。
5. 卵白の蕁麻疹4例においては、抗卵白特異 IgE 抗体は存在するが、PCA 抗体はほとんど保有しない。
6. 卵白の特異 IgE 抗体は、治療後も長期にわたり残存するが、PCA 抗体はほぼ乳児期後半に消失している。

〔総括〕

- 1) 卵白のアトピー性皮膚炎の治療例は11例あり、多くは1～3才で治療した。
- 2) 単一抗原の症状発現に必要な血清 IgE 値は少量で十分であり、高い IgE 値は多価抗原の感作の結果生じる種々の特異 IgE 抗体の集積と考えられる。
- 3) 卵白のアトピー性皮膚炎は、卵白の特異 IgE 抗体および卵白の PCA 抗体の共存により発症し、どちらか一方が消失すれば治療する。
- 4) 卵白のレアジン抗体が証明され、卵の離脱により完全寛解をみないアトピー性皮膚炎は、卵白の PCA 抗体はほとんどもってはず、卵以外の抗原が発症に関与する比率が大きいものと考えられる。
- 5) 卵白の特異 IgE 抗体は、一旦獲得すると長期に亘って持続され易く、PCA 抗体は、加齢と共に減少し、乳児期後半でほぼ消失する。
- 6) 卵白アレルギーの蕁麻疹の発症には、卵白の特異 IgE 抗体は必要であるが、PCA 抗体の共存はいらぬ。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は、アトピー性皮膚炎の発症機序及び治療への機構の一部を明らかにすることを目的としたものである。卵白摂取がアトピー性皮膚炎症状の消長に密接に関係する症例を中心に、血清 IgE 抗体及び卵白特異抗体（レアジン抗体と PCA 抗体）とその症例の症状経過を観察した。その結果、卵白のアトピー性皮膚炎の発症時期には、上記二種の卵白特異抗体が共存し、治療期にはどちらか一方の抗体（主に PCA 抗体であるが）が消失していることが明らかにされた。又卵白の特異 IgE 抗体は、長期にわたって持続され易く、PCA 抗体は加齢と共に減少していた。

以上の如く、本研究では卵白のアトピー性皮膚炎の発症には卵白の特異 IgE 抗体と卵白の PCA 抗体の共存を要し、どちらか一方が消失すれば治療する。しかし、主に消失するのは PCA 抗体であるということ初めて証明したものである。以上の研究は、アトピー性皮膚炎の発生機序の解明に貢献するところが大きい。

したがって、本論文は医学博士の学位論文として価値あるものと認める。